複合的な課題解決能力を組み合わせる社会的企業の動態

――ホームレス問題のテーマを中心に――

○一橋大学/日本学術振興会
菰田レエ也

1　目的

近年、とりわけバブル崩壊以降、社会的排除問題の解決を目指す社会的企業(NPO や協同組合)に対する関心が高まりつつある。現状、ホームレス問題を取り扱った社会的企業論では、事業面に着目した研究、あるいは社会的正当性の獲得に着目した研究が中心的になされてきた。しかし、実際の社会的排除問題の現場に鑑みれば、様々な問題が複雑に絡み合う。すなわち、個別の観点からのみでは把握することは困難であろう。つまり、社会的排除問題に取り組む社会的企業の実態を捉えるためには、当該団体が様々な課題解決能力をいかにして獲得し、組み合わせてきたのかという点を明らかにする必要がある。また、既存の研究では、社会的企業を支える連合組織の役割に焦点を当ててきたとも言い難い。実際には、個々の団体ではカバーできないような、事業や社会的正当性を確保する上で「障壁」となる様々な課題の解決に対して、連合組織は大きく貢献している。

こうした実態と研究動向を踏まえ、本報告ではホームレス問題に取り組んできた団体を事例に、社会的排除問題に社会的企業がいかにして取り組むのかを問う。

2　方法

本報告では、社会的企業の「ハイブリッド」性の観点から、ホームレス問題に取り組む団体を分析する。社会的排除問題を社会的企業が解決するには、社会的企業の本質である「ハイブリッド性」を発揮してゆくことが重要であることが示唆されている(藤井 2013)。この観点では、①コミュニティ形成、②サービス供給(事業)、③アドボカシー(運動)という課題解決能力の組み合わせに着目する。この観点をもとに、本報告では、福岡県でホームレス支援の活動に従事してきた NPO 法人抱樸と全国型の連合組織であるホームレス支援全国ネットワーク(以下、全国ネット)を分析対象とし、①、②、③を、抱樸がいかなる形で備えてきたのかを明らかにする。あわせて、全国ネットの観察・分析をすすめることで、連合組織と抱樸の関係性も検討する。

3　分析結果

分析の結果、2 つのことを明らかにした。第 1 に、抱樸では、③アドボカシーによって法制度が整備され、就労支援に関わる②サービス供給事業を本格的に開始してゆくことになった。その後、法制度の維持に全国ネットの活動が大きく貢献していた。第 2 に、①コミュニティ形成をしてゆく上で障壁となっていた貧困ビジネス批判の流れに対して、全国ネットが支援士の資格制度を構築することで、貧困ビジネスと差別化された形で社会的正当性を獲得していた。

4　結論

抱樸ではアドボカシー活動を基盤にサービス供給事業とコミュニティ形成の諸機能が支えられていた。また、その際に、全国ネットという連合組織の活動が重要な貢献をしていた。

本報告では以下 3 点の知見を獲得した。すなわち、(1)ホームレス問題に取り組む社会的企業をハイブリッド性の観点から捉える有効性、(2)コミュニティ形成、サービス供給、アドボカシー活動の相関性、(3)個々の社会的企業の課題解決能力の不足を補うアクターとして連合組織の果たす中間支援機能の重要性を明らかにしたことである。これらの知見から「ハイブリッド」性の観点の有効性を、報告を通じて提示していきたい。